

小学校国語科教科書の分析研究

— 国際理解教育の視点から —

An Investigative Study on Japanese Textbooks from the Perspective of Education for International Understanding in Elementary School

多田 孝志
Takashi TADA

Keywords : Japanese textbook in elementary school, growing nationality, school education, education for international understanding, investigative study

キーワード : 小学校国語科教科書 国民性の育成 学校教育 国際理解教育 調査分析研究

I 学校教育における教科書の意義

本章では、教科書は、学校教育の主要な教材であり、国民性の育成に大きな影響を与えてきたことを考察し、述べる。

1 教科書とは

教科書は、教科用図書ともよばれ、一般には教授のために使用されている書物の全てをさすが、かつてはもっと広く、絵図類と書物の両方をさしたこともあった。近代教育制度成立以前には、往来物と総称される書物が教科書として用いられていた。平安時代後期より江戸時代にかけて、多彩な形式の往来物が著された。現存するものは約7,000種とも言われている。

現在、わが国の法制上では、「教科書の発行に関する臨時措置法」(昭和33年)(第2条)に教科書について、「小・中・高等学校およびこれに準ずる学校でその学習内容に応じて組織配列された教科の主となる教材として用いられる児童生徒用図書である」と規定している。しかし、実際には小・中・高等学校ばかりでなく、大学でもまた一定の学習集団でも、ある領域の知識の学習に対して、基本的な内容を整理して編著された書物をさして教科書としている。

2 教科書の役割

このように定義される教科書は、明治の学制発布以来、わが国の学校教育において、きわめて重要な役割を担ってきた。教科書の重視にわが国の学校教育の特色があるといって過言ではない。わが国において教科書が重視されていることについて、いくつかの見解を取り上げてみ

よう。

柴田義松は、「教科書が、学齢期の子供たちの人間形成において果たす役割は、大きい。子供たちの精神発達に直接の影響を与えるものとして、教師が第一にとりあげられるのは当然だが、生きた人間教師の教育力には、人により時により大きな相違がある。教科書の方がはるかに強い確固たる影響力を子供の内面におよぼすことがありうる。」と論じ、同じく、わが国の学校教育における教科書の役割の大きさを強調する。

教科書検定制度を一貫して、批判し続けている山住正己は共通基盤をもたぬ「独自性」はひ弱であるとの桑原武夫の言葉を引用しつつ、「教科書づくりとは、この共通基盤の形成にほかならない。それは画一化へむかうのではなく、共通基盤づくりの重要性を自覚した人たちが、それぞれ个性的に、この基盤づくりに向けて取りくむ仕事なのであり、教師もそこへ積極的に参加していく必要があると思う」と述べ、「文化遺産を次の世代に伝える媒体として、科学や芸術に立脚しながら、子どもの成長をうながすように、教育的に系統だてられた」教科書の重要性を指摘している。

教育実践現場に近い位置にいる、カリキュラム学者の安彦忠彦は、次の見解を示す。「学校の授業を最も強く規定しているのは、教科書教材である。それは、検定済みであるだけに、教師には一層権威を持って迫ってくる。」と述べ、教育現場における教科書の重さを指摘し、教師の役割は日々の実践によってそうした教科書を批判していくことだと論じている。一方において安彦は、「私は、教科書教材の存在価値を否定しない。」と述べ、理想的教科書の条件を説明することこそ課題だと述べている。

以上引用したごとく、時代、思想や立場は異なってはいるが、教科書が日本の教育に大きな役割を持ってきたこと、またこれからも、学校教育の中心的教材として重要な意味をもっていくであろうとの見解では、意見を同じくしていると見てよいだろう。

3 教科書と国民性の育成

教科書は、学校における学習活動の中心的な資料であるのみでなく、国民性の育成に関与している。唐沢富太郎は、「教科書こそは、一部の国民だけに働きかけたというのではなく、広く一般民衆のひとりひとりに大きな影響を与えて、日本人を形成してきた。特に、過去の日本の教育が教科書中心の教育であっただけに、その影響力は大きかった。義務教育だけで実社会に出た人たちに対しては、それだけ、その人の一生を支配する力を持ち、また高等教育を受けた人たちに対しても、そのパーソナリティ形成の基礎を養っていたのである。このように考えて、教科書の歴史こそ、小学校の歴史であり、庶民の教育史であり、国民の形成史である。」と論述し、教科書が人間形成に深く関わっており、教科書が学校教育の中心的役割を担ってきたとの見解を期している。

教科書がわが国の国民性に関わってきた一つの要因は、国による教科書統制にあらう。しかしながら、それだけでは、説明しきれない何かが残る。教科書が統制され民衆の前に差し出さ

れたとしても、その教科書が人々の国民性にまで影響するには、さらにその基底に一定の教育観がなければならない。つまり学校に対する畏敬の念や、学校での教育や学問が、それ自体として価値があるとみなされる必要がある。筆者は、教科書が国民性育成にまで影響を与える背景として、「学校教育の優位性」と「日本人の教育に対する強い肯定的態度」があると考えている。以下のこの2点について考察する。

① 学校教育の優位性

周知のごとく、わが国の公教育は、アメリカのように新大陸の開拓という仕事のなかで、コミュニティが形成され、子どもの教育のための学校が設立されたのとは異なる。日本の近代学校は、明治維新により、政府方針として、立ち現れたのである。長野市の開智小学校にみられるごとく、建造物の規模のみを見ても当時の人々を、お上の学校として威圧したことは想像に難くない。

また、学校は当時であって近代化の象徴であった。学校は、日本を近代化するための新しい知識を比較的安価に提供したので、個人は、その新しい知識を学び国家目的に奉仕することにより、社会的上昇を図ることが可能であった。国家的目的と個人的目的が学校教育の中では矛盾なく統一されていたといえる。かくして、学校が優位性を持ち、学校教育の主たる教材である教科書が重視されたこともまた当然であろう。

② 日本人の教育への肯定的態度

教科書の影響力が日本人の国民性形成にまで強く反映していく背景的要因の他の一つは「日本人の教育への肯定的態度」であろう。

日本の教育を専門に研究した学者として有名なパッシン（H.Passin）とドーア（R.P Door）は、徳川時代の教育が明治以降の近代教育の基礎、土台になったと主張する。パッシンによれば「初期の小学校は寺子屋の継承であるし、大学は幕末の高等教育機関の発展である」とされる。既にこの時代においてある一定期間、同年輩の者と一緒に勉強するとの考え方や習慣が国民の間に一般的になっていた。こうした、当時の人々の教育への関心の高さの基底には、ドーアの強調するごとく「教育というものは人間に道徳的義務を認識させるもの」との日本人の教育観があったといってよいだろう。江戸時代における武士階級教育機関藩校の設立と発展、庶民の教育の場となった寺子屋の普及、さらには、後期において、伊藤仁斎の古義堂、広瀬淡窓の咸宜園、緒方洪庵の適々斎塾などの私塾が発展したことも日本人の教育への肯定的態度の証といえてよい。

4 教科書活用の有用性

「学校教育の優位性」と「日本人の教育に対する強い肯定的態度」に支えられる教科書には、作品の一部掲載、採用の重視による教科書会社の主張の希薄さなど、問題点がないわけではな

い。しかし、教科書教材には、教材として適切な要素も多い、それらを以下に収斂してみた。

(1) 正確さ・発達段階準拠・中立性

わが国の教科書は検定制度によるだけに、図表・グラフ等の統計資料や地図・年表などは正確であり、出典も明確にされている。文章表現に誤字・脱字や誤った文体はない。また学年の発達段階が考慮されており、児童・生徒の学習、更に基本的には宗教・イデオロギー等からの中立を旨としており、原則として何等かの立場に傾倒してはならないことになっている。

(2) 日常的使用

教科書は、学校教育の主要な教材であり、日常的に使用されている。この教科書教材を活用することによって、無理なく、日常的に国際理解教育の実践ができる。例えば、国語科の説明的文章による世界の文化の多様性についての知的理解、文学的作品の鑑賞を通じての人々の生き方、理科の学習による地球環境問題、社会科の学習での世界の相互依存性の拡大等々、教科の学習を深めていくことがよき国際理解教育の学習につながっていく。

教師が意識をもつことにより、教科書教材による国際理解教育の日常化が図れていく。

(3) 優れた作品の掲載

教科書には、優れた作品が豊富に掲載されている。例えば国語科や道徳では作品の一部のみの掲載である等、若干の問題点はあるが、最近の教科書は編集者の努力もあって、著名な作家の名作とされる作品だけでなく、子どもたちが興味を引く現代作家のよき作品も多くとりあげられている。また、カラフルな色彩、写真が増加し、子どもたちの関心を高める工夫が出てきた。

Ⅱ 国際理解教育の視点からの教科書分析

本章では、国際理解教育に視点からの国語科の教科書を分析する意義および本論校における教科書分析の対象・方法・調査結果の考察について記す。

1 先行研究

教科書研究の碩学は唐沢富太郎である。唐沢は、大著『教科書の歴史 教科書と日本人の形成』（創文社 1956）を刊行した。同書には明治期以降の教科書の成立と各時代に特色が詳細に記され、教科書は日本人の形成に重要な役割を果たしてきたことが論述されている。

本論考の直接的先行研究は多田孝志『国際理解教育の基礎的研究—教科書分析を中心として—』（1987）である。同論考においては、理論研究としての国際理解教育に概念、歴史と現状、国際理解教育における教科書分析の意義を考察し、論述している。理論研究から導き出された視点により、昭和50年・60年刊行の5社の国語科教科書、3社の社会科教科書を分析し、考察を加えている。教科書は、学習指導要領の改訂の影響を受けていることや、国際理解に関する内容や分量に教科書会社による差があること等を明らかにした。本論論考は、多田の

30年前の論考を継承すると位置づけられる。

2 国語科教科書分析の意義

(1) 国際理解教育の視点からの国語科教科書の分析

「国際理解教育」(education for international understanding)はユネスコの提唱に由来している。ユネスコは1974年に「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育、並びに人権、基本的自由の教育」として「国際教育」を定義した。この提唱を受けて、学習指導要領では1974年に「国際化への対応」、2002年に「国際理解」、2006年に「国際教育」という言葉で国際理解教育を位置づけてきた。

国際理解教育は、「人間理解」、「文化理解」、「世界に現実理解」により構成されている。また、教育として知識・価値・技能を包含している。

2000年代に入ると、国際理解教育に概念を広げる教育が登場してきた。2002年に開催された“持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)”の実施計画の議論の中で、わが国が「持続発展教育(ESD)の10年」を提案し、各国の政府や国際機関の賛同を得た。この教育は、「持続可能な未来と社会の変革のために行動できる人」の育成を目的に掲げた。さらに持続可能性を基盤とし、「未来に希望がもてる社会を築く」ため、「自分の考えをもって、新しい社会秩序を作り上げる地球的視野をもった市民の育成」の必要を示した。

こうした動向を受け、国際理解教育学会では、国際理解教育に未来志向を加味し、「未来への選択」が主要な構成要素として位置づけた。本論考では、従前の「人間理解」、「文化理解」、「世界に現実理解」に加え、「未来への選択」も構成要素とし、教科書を分析していくこととした。

(2) 国語科の目的の考察

国語科の教科書の分析は、教科書の内容が、「時代に対応した学校教育に深く関わっている」ことを検討するために重要である。

グローバル時代の国語教育の大きな目的は、国語科の特色である言語の教育、「表現」「理解」と「言語事項」の学習を通して、感性を磨いたり、多面的見方、複眼的思考、洞察力、固定観念の打破などグローバル時代、多文化共生社会に生きる人間としての資質・能力、技能を培ったりしていくことにある。

現行の学習指導要領小学校国語科編には、目的として「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」が示してある。グローバル時代の到来を視野の、国語科教育推進のねらいを考察すると以下が上げられよう。

- ・言語には、人と人とを結ぶ力がある。
- ・日本語は、豊かな表現をするためのさまざまな特質がある。
- ・古典には、現代につながる伝統的文化や生き方、価値観がある。

- ・民族の文化を、反映、伝承、構築するものは言語である。また、異文化をもつ人々との相互理解は言葉により深められる。
- ・地球生命系、地球社会の未来をつくるのに言語は重要な役割を担う。
- ・自分の生き方を省察し、未来を展望していくのは言語による。
- ・ことばの多義性への認識の深化、非言語表現の学習、作品に込められた作者の意図の読解などは、感性・感覚を錬磨し、想像・イメージ力を育む

国語科教育は、言語による伝達、文化の伝達・継承、地球生命系と未来社会等々、国際理解教育に関わる事項を包含している。次項では、こうした国語科の教科書を国際理解教育の視点から平成60年度と現行教科書を比較分析する。

3 分析方法・対象及び作業手順

(1) 分析方法

教科書分析によりわが国の教科書問題を体系的に検討したのは唐沢富太郎であろう。唐沢は、「教科書の歴史こそ、国民の形成史である。」との立場に立ち、主として人物・地名・教科書の作品の内容の3つの観点から教科書を総合的に分析しながら、各時代の教科書の特徴を明らかにしている。今回の教科書分析における筆者の立場は基本的には唐沢に依拠するものである。しかしながら、唐沢の分析には、以下の問題点を見出すことができる

①教科書に現れた人物は日本人、東洋人、西洋人に大別されているが、詳しい地域別分類、また、ジャンル別分類は行われていない。②登場人物、地域地名について量的な分析をしているが、登場人物が、作品中でどのような役割をもち、また、地域地名がどの程の範囲に関わっているかについての、質的分析がなされていない。

今度の研究では、1956年の唐沢の教科書分析の観点、1987年の多田の国際理解教育の視点を援用しつつ、更に改善を加え、以下の3つの方法により教科書分析を行う。

①量的分析

- a) 昭和60年発行・平成27年刊行の国語科の教科書に登場する人物の量的比較を行う。
- b) 昭和60年発行・平成27年刊行の国語科の教科書の地名の量的比較を行う

なお、今度の教科書分析における地域区分は、文部省在外教育施設の地域区分を採用した。また、国語のジャンルの別は藤原宏、田近洵一、井上尚美のジャンル別によった。

②質的分析

昭和60年発行・平成27年刊行の国語科の教科書に登場する人物について、以下の観点から役割別分類をする。

表-1 ジャンル別一覧表

I-1	物語、童話
2	劇教材
3	詩歌
4	手紙文、日記、随筆、紀行文
5	伝記
II-1	記録文、報道文、説明文、等
2	論説文
III-1	言語
2	言語事項
IV-1	作文
V-1	総合
2	読書案内

表-2 国語教科書の役割別分類

A) 作品全体と通して主要な役割をしている人物
B) 作品の中での脇役あるいは部分的に主要な役割をしている人物
C) ごく部分的に登場し、一応動作や性格が説明されている人物
D) 氏名や代名詞がでている程度の人物

③内容分析

本論文の教科書分析においては、「人間理解」「文化理解」「世界の現実理解」の国際理解の3つの構成要素を分析の視点とし、さらに、持続可能な開発のための教育等で重視されてきている未来志向の視点を「未来への選択」として加え、これらの四つの分析の視点に各々下位カテゴリーを設定し、教科書内容のより精緻な分析を試みる。

5 教科書分析の結果と考察

昭和60年刊行と平成27年刊行の国語教科書の比較分析結果

(1) 量的分析

表3は、平成27年度に刊行された、A社教科書に登場する人物のジャンル別、役割別、地域別分類一覧である。また、表4は、B社教科書に登場する人物のジャンル別、役割別、地域別分類一覧である。

表5、6は、A社およびB社から昭和60年度の刊行された教科書に登場する人物のジャンル別、役割別、地域別分類一覧である。

これらの表に集計された結果を分析・考察すると以下が指摘できる。

第一に、A・B両社ともに、日本人以外の地域からの登場人物が減少していることである。A社ではアジア19→6、大洋州0→0、欧米49→3、中南米0→0、中近東2→1。アフリカ、大

表5 A社昭和60年度刊行国語教科書の登場人物の地域・ジャンル・役割別分類

			日本				アジア				大津州				欧米				中南米				中近東				アフリカ				その他			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
昭和六十年発行	文学的文章	I-1	43	50	33	51	3	7	3	5					4	5	12	2																
		2																																
		3	14	10	10	6											2	2																
		4	5	8	4	9																												
		5				1									2	3	3	4					3	1						3	3			
	説明的文章	II-1	4	17	20	28				1	5				1	8	3																	
		2																																
	作文	IV-1	27	19	30	41										1																		
	読書案内	V-2																																

表6 B社昭和60年度刊行国語教科書の登場人物の地域・ジャンル・役割別分類

			日本				アジア				大津州				欧米				中南米				中近東				アフリカ				その他			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
昭和六十年 発行	文学的文章	I-1	33	43	36	45								13	8	2	11												9	2	2	1		
		2	10	1																														
		3	11	5	6	7											2																	
		4	1	1										2																				
		5	1		6	7								1	2	4	9																	
	説明的文章	II-1	1	3	5	13									4	2	1													3	3	2		
		2																																
	作文	IV-1	18	12	10	4										1	6																	
	読書案内	V-2		14	9	5									9	2	6														1	1		

(3) 内容分析

表-7、表-9は、A・B両社の5年生・6年生の国語教科書の教材群を、国際理解教育に構成要素との関連について分析し、位置づけた一覧表である。表-8、表-10は、昭和60年度の分析結果である。

平成27年度と昭和60年度のA・B社の小学校国語教科書の内容分析結果の考察から以下の4点が考察できる。

第一は、日本の伝統文化関連教材の増加の増加である。

A社5年生教科書、「古典に親しもう」「古文を声に出して読んでみよう」「和の文化を受け継ぐ」、同6年生教科書「日本の伝統芸能」「日本語調べ春・夏」「クラス句会を開こう」はその例である。

B社5年生教科書には、「古典の世界に親しもう」「夏の夜」「和歌・漢語」「古典の世界」「詩の楽しみ方を見つけよう」、6年生の教科書には「鳥獣戯画を読む」「柿山伏について」「生活の中の言葉」「日本で使う文字」が掲載されている。

他方、他国の文化理解、文化の多様性・普遍性関連の教材の減少が顕著である。A社においては5年「世界でいちばんやかましい音」、6年「桃花片」のみであり、B社においても「のどがかわいた」以外に見いだせなかった。

第二は言語事項関連教材の増加である。

A社5年生教科書には「表現を整理して聞き取ろう」「立場を決めて討論しよう」「伝えよう委員会活動」「ことばの力」、6年生教科書には「意見と理由のつなげ方を聞き取ろう」「新聞の投書を読み比べよう」「問題解決のために話し合おう」「物語をつくろう」が掲載されている。

B社の教科書には「きいて、きいてみよう」「分かりやすく伝える」「すいせんします」、6年生の教科書には、「河鹿の屏風」「ようこそ私たちに町へ」「表現を学ぶ」「たのしみは」などの教材群が掲載されている。両社共に、言語事項関連教材を増加させている。

第三は、「世界の現実理解」「未来への選択」関連教材の増加である。A社5年教科書掲載の「新聞を読み比べよう」、6年生教科書の「イースター島になぜ森がないのか」「ひろしまの歌」は、B社5年「新聞を読もう」「天気を予想する」「一枚の写真から」、B社6年「森へ」「平和の砦を築く」生き物はつながりの中で」「せんねん、まんねん」は、世界の現実と、平和の大切さ、地球環境保全をテーマとした作品である・

希望ある未来社会の構築をテーマとした作品として、A社5年教科書には、「森林のおくりもの」、6年生「未来に生かす自然エネルギー」「町の幸福論」、B社5年教科書には「明日をつくるわたしたち」「百年後のふるさとを守る」「次への一歩、活動報告書」、6年生

「宇宙飛行士」「未来がよくあるために」「未知へ」「支度」「今、私は、ぼくは」がある。

第四に、総合教材の掲載である。価値・知識・異文化間コミュニケーションを関連づけた作品群が掲載されている。A社5年教科書「森林のおくるもの」、6年生「町の幸福論」 B社5年生教科書「百年後のふるさとを守る」、「ニュース番組の現場から」、6年生教科書教材「心に響く手紙」はその例である。

表7 A 社 平成27年度刊行国語教科書内容分析表

分析の観点			5 年		6 年	
	価値	知識	異文化間コミュニケーション	価値	知識	異文化間コミュニケーション
人間理解	<ul style="list-style-type: none"> 。人類の起源 。人間の尊重 。人間としての共通性 。人間としての生き方 	I-3 ぼくらのもの I-1-1 だいじょうぶだいじょうぶ I-1-1 注文の多い料理店 II-1 手塚治虫 II-1 宮沢賢治 I-1-1 大造じいさんとかん IV-1-1 六年生におくる字をさがす		I-3 生きる I-1-1 風きるつばさ I-1-1 いま始まる新しいいま I-1-1 海のいのち II-1 君たちに伝えたいこと		I-4 ずい筆を書こう IV-1 表現と理由のつながり II-1 新聞を投書を読み比べよう IV-1 問題の解決のために話し合おう V-1 物語をつくろう
	<ul style="list-style-type: none"> 。自国の歴史・伝統言語等 。自国の生活文化 。国民的自覚 	III-1 日本語しらべ I-4 古典に親しもう I-1-1 敬語を使おう I-1-1 古文を声に出して読んでみよう I-3 日本語しらべ III-1 方言と共通語	III-1 一つの言葉から IV-1 意見と理由を聞き取ろう IV-1 立場を決めて討論しよう III-1 熟語の構成を知ろう IV-1 言葉の力・日本語の文字力		I-3 日本語のしらべ I-3 日本語のしらべ II-1 漢文を読んでみよう V-1 クラス句会を開こう II-1 言葉はかわる II-1 日本の伝統芸能	
自他の文化理解	<ul style="list-style-type: none"> 。他国の歴史・伝統言語等 。他国の生活文化 。他国の国民性 	I-1 世界でいちばんやかましい音	II-1 漢字の由来に関心をもちよう	I-1 桃花片		
	<ul style="list-style-type: none"> 。文化の多様性 。文化比較 。文化交流 。文化の普遍性 。文化の等価値性 	II-1 動物の体の気候			II-1 言葉の由来に問いをもちよう	
世界現実理解	<ul style="list-style-type: none"> 。世界の相互依存性 。世界の共通課題 。国際協調と協力 。世界の動向 。平和を愛する精神 	III-1 新聞記事を読み比べよう II-1 テレビとの付き合い方	IV-1 資料を活用して書く	II-2 イースター島にはなぜ森がないのか I-1 ヒロシマの歌		
未来への選択	<ul style="list-style-type: none"> 。未来に向けての行動力 。地球市民意識 。未来への希望 	II-1 森林のおくりもの		I-3 いのち I-1 サボテンの花 V-1 資料を活用して呼びかける文章を書こう II-1 街の幸福論 II-1 プロフエッショナルたち	II-1 未来に生かす自然エネルギー	

表9 B 社 平成27年度刊行国語教科書内容分析表

分析の視点		5年			6年		
		価値	知識	異文化間コミュニケーション	価値	知識	異文化間コミュニケーション
人間理解	。人類の起源 。人間の尊重 。人間としての共通性 。人間としての生き方	I-1 なまえをつけてよ I-1 大造じいさんとガン			I-1 カレーライス II-1 笑うから楽しい I-1 やまなし I-4 忘れられない言葉 I-3 生きる I-4 心にひびく手紙		IV つないでつないで一つのお話 V-2 私と本 IV 学級討論会をしよう IV-4 今、私は、はくは
	。自国の歴史・伝統言語等 。自国の生活文化 。国民的自覚	I-3 ふるさと I-1 あめ玉 I-1 みるなのさしき I-3 春の空 I-1 千年の釘にいとむ I-1 わらぐつの中の神林 I-3 想像力のスイッチを入れよう	III-1 漢字の成り立ち よう I-1 古典の世界を楽しもう IV-2 日常を十 七音で IV-2 敬語 III-1 暗号解読 II-1 自分の感情を表す言葉 III-1 漢字の広場 II 漢字の読み方 と使い方 IV-2 すいせんします I-4 夏の夜 III-1 和語・漢語・外来語 IV-1 分かりやすく伝える I-3 古典の世界 I-3 詩の楽しみ方を見つけよう	I-1 海の命 I-5 イーハトーブの夏 II-1 伝えられてきたもの II-1 かなえられた願い	II-1 漢字の形の音・意味 II-1 漢字の広場・熟語の成り立ち II-1 生活の中の言葉、日本で使う文字 III-1 秋の深まり、春を候 つ冬 II-1 鳥獣戯画を読む II-1 柿山伏について II-1 ガンジー博士の山登り	I-1 河原の屏風 IV-1 ようこそ、私たちの町へ I-3 たのしみは II-1 漢字を正しく使う方法 III-1 表現を選ぶ III-1 学習に用いる言葉	
自他の文化理解		。他国の歴史・伝統言語等 。他国の生活文化 。他国の国民性	I-1 のどがかわいた				
文化の多様性・普遍性		。文化の多様性 。文化比較 。文化交流 。文化の普遍性 。文化の等価値性					
世界現実理解	。世界の相互依存性 。世界の共通課題 。国際協調と協力 。世界の動向 。平和を愛する精神	II-1 新聞を読もう	II-1 生き物は円柱形 II-1 天気を予想する	IV-1 1枚の写真から	I-1 森へ I-3 せんねんまんねん II-1 平和のとりでを築く II-1 自然に学ぶくらし II-1 生き物はつながりの中で		IV-2 「たいいせつ」のまとめ IV-1 考えを助ける方法
未来への選択	。未来に向けての行動力 。地球市民意識 。未来への希望	I-3 銀河 IV-1 明日をつくるわたしたち II-1 百年後のふるさとを守る II-1 ニュース番組の現場から	IV-1 次の一歩多様な報告 V-1 大学生になったら V-1 グラフや表を用いて書こう		I-3 支度 I-3 未来へ I-3 宇宙飛行士		IV-2 未来がよくあるために IV-2 今、私は、はくは

表 10 B 社 昭和 60 年度刊行国語教科書内容分析表

		1 年			2 年			3 年		
		価値	知識	異文化間 コミュニケーション	価値	知識	異文化間 コミュニケーション	価値	知識	異文化間 コミュニケーション
人間理解	。人類の起源 。人間の尊重 。人間としての共通性 。人間としての生き方	II-1 火の話 I-3 初雪 IV-1 I-1 白いぼうし IV-1 I-3 船の汽てき I-3 夕日 IV-1	伊藤君へ 朝市 かわいい子ねこ	II-1 花粉は語る V-1 人間の言葉 I-1 いっもいばっているけれど I-3 I-3 I-1 20年前のサンマの化石 I-3 IV-1	水道工事のおじさん お母さんの口ぐせ いっくしむ ひよどり	I-1 緑の馬 I-3 母 I-3 雪 I-3 諸星君 I-1 かも卵 新しき世界へ I-3 かめ、虫けら IV-1 I-5 民衆の幸せを求めて V わたしの生いたちの記	IV わたしたちの将来 私の心配 IV 1 町工場 V わたしの生いたちの記			
		。自国の歴史・伝統言語等 。自国の生活文化 。国民的自覚	II-1 ゆたかな日本語を I-1 どんぎつね I-3 I-2 夕鶴 II-1 砂防の苦労	I-1 花はどこにいった I-3 I-2 木竜うるし IV-1 I-1 つな引きとすもう I-3 かきの実 I-3 ふるさと I-3 山頂	I-1 赤神と黒神 I-3 雪 I-3 短歌と俳句 II-1 日本人とすぎ	II-2 反対語の使い方 II-1 日本の文字とことば				
	。他国の歴史 。伝統言語等 。他国の生活文化 。他国の国民性	▽ I-1 妹の宿題				▽ I-5 ことば一つで世界が				
文化の多様性 普遍性	。文化の多様性 。文化比較 。文化交流 。文化の普遍性 。文化の等価値性		I-1 海をわたるモンシロチョウ							
世界の現実理解	。世界の相互依存性 。世界の共通課題 。国際協調と協力 。世界の動向 。平和を愛する精神									

Ⅲ 研究のまとめと考察と今後の課題

本研究の結果を集約すると以下が言えよう。すなわち、昭和昭和60年度刊行の刊行と平成27年度刊行の小学校国語教科書を、質的分析すると、登場人物が日本人以外の外国の人々であることが激減している。さらに、教材中での主要な役割の外国の人々も減少している。このことは、グローバル化の必要が指摘されながら、学校教育の実態は、国民的自覚を重視しているとみることができるのではなかろうか。

内容分析においては、上述したごとく、他国文化理解が激減し、日本の伝統文化に関わる教材群が増加している。

この要因を考察してみる。2006年に教育基本法が改正され「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」(第2条第5項)と定められたことによる。国語科の学習指導要領においても「伝統文化学習」の重視が示された。政治の方向が、教科書の内容に影響を与えていると判断できよう。

伝統文化の重視は重要であるが、国際理解教育推進の立場からは次に問題点が指摘できる。文化(culture)という用語はラテン語のculturaに由来し、耕作、栽培、培養等を意味する。かつては、文化は洗練された文学・音楽・絵画・彫刻・演劇等を指す用語として用いられてきた。しかし、今日、社会科学において、一般に用いられる文化の概念は、人類学者エドワード・タイラーによる「知識、信仰、芸術、道徳、法律、慣習その他社会の成員としての人間によって獲得されたあらゆる能力や習慣の複合相対である」(E.B.tylor 1871)という定義によって確立されている。すなわち、文化とは、それぞれの時代、社会における知的・精神的活動の到達点である上位文化と、人々の生活様式や生活パターンそのものである生活・生業の文化を含む概念と考えることができよう。

国際理解教育の希求するグローバル時代の人間形成の視点からは、異なる文化のよさを受け入れない鎖国的心情や、自国の文化の優越性のみを偏重する自文化中心主義の姿勢は、偏狭なナショナリズムを生起させることを指摘する。

自国の伝統文化よさを知ることが、異文化理解の視点をもち、そのよさを感じ得る契機となることが望まれる。伝統文化理解とは、内に向かって狭めていくことでなく、外に向かい広げていくことでなければならない。

本論考における集計結果から、小学校国語教科書の記述が、グローバル化に対応していないといつてよいであろう。ここに現行の小学校国語教科書の大きな問題が指摘できる。

おわりに

本論考における調は、次の課題を明確にした。その第一は、調査対象教科書数についてである。先行調査研究として前回調査では、昭和60年度刊行の5社の国語科教科書、さらに昭和50年刊行の教科書も対象とし、60冊を調査した。今後の調査結果をさらに明確にするためには、対象教科書数の拡大が課題である。

第二は内容分析についてである。たとえば、言語事項に関連する教材群は、その内容においてグローバル時代の対話力の育成に対応しているかどうかは、今後掲載されている教材群の分析が必要である。文化理解についても、動的文化観、文化の狭間性、文化混淆など、新たな文化理解の視点から検討していく必要があろう。

第三に昭和昭和60年度刊行の刊行と平成27年度刊行の小学校国語教科書の変化の

要因分析である。学習指導要領の改訂が影響していることは、前回の調査研究で明示できたが、今回に変化は、さらに時代的背景、持続可能な発展のための教育の登場など、社会と教育の動向が影響していると推測できる。また、政治・経済の動きと許可書の内容との関わりは、きわめて重要であり、更なる分析・検討が必要である。

【注】

- 1) 柴田義松「まえがき」, 柴田義松編『教科書』, 有斐閣選書, 1983, p.2
- 2) 山住正巳『教科書』, 岩波書店, 1989, p.189
- 3) 安彦忠彦『現代授業研究の批判と展望』, 明治図書, 1984, pp.117-119
- 4) 唐沢富太郎『教科書の歴史』, 創元社, 1956, p.1
- 5) 新堀通也『世界の中の日本の学校』, 新堀通也編『日本の教育』, 1981, p.31
- 6) 多田孝志『国際理解教育の基礎的研究—わが国教科書の分析を中心として—』上越教育大学大学院修士論文, 1987年
- 7) 同上 pp.19-24
- 8) 渡部淳「国際理解教育の理論と概念」, 日本国際理解教育学会編『グローバル時代の際理解教育』, pp.17-27 参照
- 9) 文化理解の概念、政治や経済と文化との関わりについては、下記文献に詳記しているので参照されたい。
多田孝志『学校における国際理解教育』, 東洋館出版社, 1997年—多田孝志『地球時代の教育とは』—岩波書店, 2000年

(平成29年1月17日受理)